

校長室より

第15号

「天空高き」



平成23年2月5日

本物を体験する

サッカーの話で恐縮ですが、中東カタールでアジアカップが開催されました。結果はご存じのように日本が2大会ぶりに優勝しました。生徒の皆さんの中にはこの試合をテレビ観戦した人も多いのではないかと思います。私も日本戦は心待ちにしていました。

ところで、私は時間がゆるせば、できるだけスタジアムで観戦するようにします。テレビ観戦の方が選手のプレーがよく見えますが、あの独特な雰囲気や感動はやはり実際に足を運ばないと体験できません。

サッカーを観戦し終わると、できるだけその地域の食堂やレストランで食事をします。名所や旧跡は勿論のことですが美術館や博物館があれば鑑賞して回ります。時には記念写真は撮りますが、できるだけ自分の体全体、五感で見たり聞いたり感じたりするように心掛けています。

日本代表がはじめてワールドカップに出場できた1998年のフランス大会での戦いは一選手のプレーや失点した場面、スタジアムのざわめき、ピッチを抜ける風やにおいなど今でも鮮明に覚えています。また、どこで何を食べ、ルーブル美術館で鑑賞したモナリザの柔らかい微笑みもミロのビーナスの圧倒的な存在感も、昨日のこのように思い出します。



川口 健治作

私達が住んでいる町にも本物はたくさんあります。5連のアーチからなる名勝錦帯橋や国の天然記念物白蛇。広島に足を伸ばせば世界遺産に指定されている宮島厳島神社や原爆ドーム。

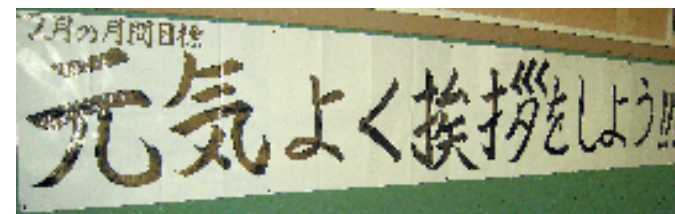
本物を体験すれば自分のからだから自然に覚えてくれています。

中学生の時期はあらゆる方面への無限の可能性を秘めています。この大事な時期に実体験はも

ちろん、音楽や絵画の鑑賞、スポーツ観戦、それが台風などの自然現象でも、目や耳や肌で感じる体験は、たとえそれが今の自分とかけ離れていようとも、本物の基準を自己の中にしっかりと確立させます。本物をよりたくさん経験することによって正しい価値判断や基準を確立することができます。社会に出てもしっかり生き抜くことができます。さらに、今後、世の中で出会うさまざまなものやできごとが、本物であるかどうかを判断する能力を身に付けることもできます。

これは人間関係の中での体験にも通じます。先輩と後輩、上司と部下などの人間関係においても、立場や部をふまえた本物の指導を体験すれば、自分の周りだけの狭い世界にとどまらずに幅広い価値観で物事を判断できるようになります。日本ばかりでなく世界のめまぐるしい変化の中でも的確に対応していく能力を持つことができます。本物を知っていればこそ、何が大事であるか、何を取り入れ、何を切り捨てるべきかをしっかりと見極めることができます。

自分の五感をフルに活用して本物を求め、積極的に行動してもらいたいと思います。



今年度の反省と次年度に向けて

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。とよく言われます。2011年がスタートして早1ヶ月が経過しました。3学期はあっという間に終わってしまいます。

3月の初旬には学年末考査が待ちかまえています。今年度の総決算の時期です。基礎学力はこれから皆さんが生きていく上で大切なものです。早めに取りかかり、全力を尽くして臨んでほしいものです。

考査が終われば、卒業式や終業式です。3学期を今年度の1年間を振り返り、新しい学年に向けて学習の準備や心の準備をしっかりしていきましょう。

高水高等学校附属中学校
校長 前田 茂雄

土台をしっかりしておけば、その時は時間がかかるようでも、あとの仕事に入ってから、すべて段取りよく進む。 作家 庄野 潤三